

第4回 新しい日田の森林・林業・木材産業振興ビジョン策定委員会

日時：平成27年2月20日（金）13：00～14：30

場所：日田市役所7階 大会議室

次第

1. 開会
2. 委員長挨拶
3. 報告
 - (1) パブリックコメントについて
 - (2) ビジョン案の修正について
4. 意見交換
5. その他
6. 閉会

意見交換

城戸委員長

パブリックコメントへの対応や、ビジョンへの加筆・修正などへの意見をお願いしたい。なお、パブリックコメントの修正3ページで、JR日田駅の木質化支援を「公共交通機関等の」と修正しているが、この表現ではバスや電車そのものの木質化と受け取られかねないので、「公共交通機関に関わる施設等の」と修正した方が良いのではないか。

委員

5ページで「設計士」という箇所があるが、通常は「建築士」という表現なので修正をお願いしたい。

委員

ビジョン36ページの重点施策(1)-2については、広葉樹・早成樹を含む植林樹種の多様化、育林工程における機械化技術の導入も加えてもらいたい。また、(1)-3の効率的な施業・経営の集約化については、単なる施業の集約ではなく、売買を含めた集約を進めることが重要ではないか。売買のマッチング支援が大切だ。

城戸委員長

マッチングについては、(1)-3に加えるのが妥当かどうかだが。事務局からは何かコメン

トは。

事務局

現在、不在村地主からの要望などは森林組合が主な窓口となって対応しており、何か行政支援はできないかとの提案だと思うが、実情としては、そこに答えを見いだせていない。(1)-3 については、所有権の移動などに関わらない集約化が重要としている。「売買」が必要ということであれば、検討が必要になるだろう。

委員

今後は所有権の移動を伴った集約化が不可欠になると思うが、市としては具体的に何か取組を考えているのか。公有林化ではなく、売買の申し出があった林地を一旦、市が引き取って他に販売するというイメージだ。

事務局

所有権の移動の仲介は市としては考えていない。

城戸委員長

(1) -3 の最後の段落にはきちんと、売却・譲渡が困難な森林の取り扱いについて調査・研究するとの記載がある。今の意見を否定しているわけではなく、現段階としてまずは調査・研究が必要ということだろう。

委員

放置すると災害につながるような森林の取り扱いを考えるにあたっては、「所有権の移動」まで含めると話しが複雑になり、前に進まず、防災の取組であってもダメになる場合も出てくる。そこはあえて触れてなかったが、現実問題どうするか、話しをしなければいけないと感じている。筑後川流域での水源保全計画において、森林トラストなどでの買上を検討する動きもあるが、現段階においてビジョンで明確に記載していくのは難しいのではないかな。

城戸委員長

災害関連ではなく、ビジネスにおいて効率的に経営するための所有権の流動化に一步踏み込んだ方が良いという意見だったと思う。事務局としては調査・研究としているが、場合によっては、「所有権の流動化」という記述をどこかに加えても良いのではないかな。

副委員長

平成 3 年の台風災害を経験した市町村としては、ビジョン全体的に森林の危機管理の記

述が弱い。当時の材価が 26,000 円/m³だったものが、13,000 円/m³まで下落し、林業家の森林経営の意欲が低下している。労務が平成 3 年の時より激減している。作業をする人が少なくなる。その環境で復旧が進まないということが予想される。平成 3 年の台風災害以降、林業を取り巻く環境で唯一良くなったのはバイオマス発電所ができたことくらいだ。あとは、マイナス要因ばかりだ。災害が発生した際の事務方の行動マニュアルなどを作成すべきだ。災害時の森林組合などの労働力分配のシミュレーションなども行うべきだ。ビジョンづくりでは必要だ。

城戸委員長

平成 3 年の台風災害の教訓が生かされていないので、ビジョンの中でもう少し記述すべきだという意見だ。今の段階で、教訓を生かし具体的に何をするとまでは記述できないにしても、せめて平成 3 年の台風は忘れていないという旨の記述をして欲しい。

副委員長

水害の場合はすぐに調査ができるが、山の場合は伐開する必要があるので労力がかかる。災害が起こったときに、かつて作成したハザードマップを活用し、推定される地域など、市の事務方と森林組合が対応について事前に協議しておくなど、いざというときにすぐに動けるような体制づくりが重要ではないか。

城戸委員長

重点施策にする必要はないが記載が必要だろう。例えば、14 ページの新日田構想からの変遷の中で、①台風災害からの復旧促進の記載があり、そのミッションが、(ロ)本ビジョンで継続する課題ではその内容が薄れているので、そこに書き込むことも検討してもらいたい。それか、20 ページや「森を守る」の箇所にリスクマネジメントの観点での記述をしてもらいたい。

事務局

ご指摘の通りだ。20 ページについては、一般論についての記載があり、本市についての説明は、3 行目で、平成 3 年をとばして平成 24 年の水害についての記載になっている。このあたりに平成 3 年の災害についての記述し、リスク対応に取り組むべきと加えたい。

委員

関連して、9 ページに年齢構成のグラフがあるが、4 年齢級がひときわ多くなっていることの説明も加えていただきたい。

委員

県際サミットで、沼田長官にも来ていただき、あれほど「日田林工の活用」について、情報発信やネットワークづくりの拠点にしようという話しが盛り上がっていたにも関わらず、ビジョンの中では林工の記述が点在しているが、役割の明確な記述が見あたらない。林業の働き手を再教育し、マーケティングなどを教えていくなどという発想もあるかと思う。日田林工の役割を強調していただきたい。

城戸委員長

人材育成については、林業咸宜園、木材アカデミー、デザイン会議などの記載があるが、全体像とそこでの位置づけが良くわからない。全体像を明確にしたうえで、日田林工や県の林業研究部などの位置づけを記載すると見やすいと思う。林業咸宜園自体は非常に良いアイデアだと思うが、全体の中でどのように位置づけられ、既存のものとの関連性がどのようになっているかをもう少し明確にしてはどうか。日田林工については、県の施設なので市が強く言えない部分もあると思うが。

委員

林業の現場で実際に作業をするのは森林組合なので、森林組合と市が十分に話し合っ、実際に森林組合が動かない限りは、ビジョンは達成しない。日田林工での理論的な教育も、現場での実践があって初めて活かされる。事業としては、ビジョンに記載してあることで良いと思う。咸宜園のもとに連携をうまくしていくかが重要。様々な要素を言い出したらキリがないので、この程度の記述で良いのではないか。

委員

日田林工で林業、木材産業の担い手を育成するとすれば、現場の技術を伝えるために、生徒を現場に連れて行ってトレーニングすることも重要であり、私どもの従業員を再度林工に通わせ、マーケティングなどの教育を受けさせることも必要ではないか。森林組合や我々の現場と林工などが有機的につながることが重要だ。ビジョンにおける具体的な記述を考えると、どこにも関係があるので記載箇所の抽出が難しいが、ぜひ加えて欲しい。

委員

日田林工は林産工学科がなくなり、林業科だけになっている。今まで2つの科でそれぞれ教えていたことが、全部林業科が担っているので大変なことになっている。林業のプロがこれだけ市内にいたので、そことの連携ができる方策を考えるべきだ。現場の実情を直接話しができる場面ができれば、日田林業と日田林工が結びついてくる。全体で、お互いに技術などを共有するシステムが欲しい。

城戸委員長

今の意見はその通りで、だからこそ事務局では「再クラスター化」として有機的なつながりをつくることを目指している。理念的には一致している。46 ページ、55 ページに森林組合も日田林工も含まれているが、具体的にどのように関わるかが見えづらいということだ。例えば、日田林工にプラス 2 年の専攻科をつくるなどの可能性があるということ、我々は認識しているという記述ができれば良いのではないか。せつかく日田林工という教育の場があるので地域全体で支えるということと、場合によれば、一度高校を卒業した人でも学ぶことができる機会を設ける「リカレント教育」が重要になるだろう。そのあたりを 1～2 行加えていただきたい。

委員

製材業の立場で言わせていただくと、44 ページに関連するソフト事業についての記載はあるが、日田市全体として、将来的にどのような製材工場を目指すのかという記載がない。原木の供給体制についても、製材工場の運営についても、今のままを維持するという方向性で良いのかどうか。ビジョンに本市のあるべき将来像をどこまで盛り込むのかというのは判断が難しいかもしれない。事務局の苦労は理解するが、あるべき方向性について、もう少し具体的な表現の仕方があるのではないか。

城戸委員長

具体的なプロジェクトに向けたキーワードの提案をお願いしたい。ポータルサイトなど耳に心地よいキーワードは並んでいるが、もう少し具体性があると良いかもしれない。具体的なことは、IV章の推進体制に記載があるように、推進委員会などで具体的なアイデアを形にしていくことになるのかもしれない。

委員

業界としては「CLT」が手っ取り早いかもしれないが、日田ならではとなると難しい。

委員

産業観光、着地観光は重要になるのではないか。例えば、森を守るための観光として、森を作るところを見て体験してもらい、製材を見て、市場を見て最後に家や家具を作るところを見て体験してもらうという産業観光、我々が持っているものを見せるという着地型観光をしてもらう。それをマーケティングにつなげていく森林環境教育が大切になる。そこを強調した方が良い。

城戸委員長

今の意見は、53 ページの記述内容と同じだと思うが、「着地型観光」というキーワードを

記載してもらいたい。日田は観光都市なので重要だ。53 ページに例があるが、せっかくなので、イメージで構わないので、5つのプログラムなど具体的なコースを示してはどうか。

委員

ビジョンはあくまでもビジョンなので、推進委員会の設置を早くしてもらい、早く取り組んでいただきたい。

城戸委員長

せっかくなら推進委員会はプロジェクトごとに設置していただきたい。「守る」「活かす」「つながる」など。

委員

国有林では低コスト化の取組として、伐採後すぐ造林をするということを現場で実施している。伐採後はコンテナ苗を植え、各種データをとって研究しているので、そのような現場の見学などの希望があればぜひ知らせていただきたい。林野庁の事業で、森林総合管理技士の研修なども実施している。路網整備や木材の安定供給なども入っている。人材育成においては、そのような制度もぜひ活用していただきたい。

委員

せっかくなので、7ページの県、国の動向などの箇所に農林水産大臣も出席した日田サミットの動きなども記載してはどうか。また、31ページの施策体系については、対応する章・節などをわかりやすいようにきちんと記載して欲しい。

副委員長

このビジョンの象徴的な図などを積極的に活用し、皆に「刷り込み」をして欲しい。ビジョンをせっかく作ったので、市役所内部にも刷り込んでもらい、意識改革につなげてもらいたい。

委員

ビジョンは20～30年先を見据えるものだが、内容としてはハコモノづくりが中心になっている。20年後は木材の利用方法が変わっていると思う。従って、物理的・科学的見地から、新たな材料としてのスギのモノづくりを考えるという内容をイノベーションの箇所にでも記載してもらいたい。

城戸委員長

ビジョンはHPでも公表されると思う。できる限り、周知徹底できるような取組を事務局

の方で工夫してもらいたい。今回は基本計画ではなくビジョンなので明確なロードマップは作成していない点は了承いただきたい。意見が他にないようであれば、今回の意見をもう一度事務局練り直していただいて、委員長・副委員長が最終確認するという体制で、基本的には事務局預かりとしたい。

委員各位

異議なし

事務局

4回に渡り委員の皆様には、貴重なご意見・提言をいただきましたことに感謝申し上げます。大切なのはビジョンをいかに実行に移すかであり、国では「地方創生」が掲げられているが、いかにして林業を中心に本市の活性化につなげていくかが重要だ。ビジョンが日田の林業・木材産業の流れを変えていければと思う。今後も引き続きご協力をいただければと思う。これにて第4回委員会を終了したい。ありがとうございました。

以上